

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム サルビア

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)

氏名 水口 泰如

評価完了日

平成 20 年 7 月 1 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 簡単明瞭で職員誰もが何時でも口に出せる理念を掲げている。 地域密着型サービスとしての原点を理念としている。		
			(外部評価) 利用者一人ひとりが地域の中で「あたりまえ」に暮らせるよう、支援することを目指しておられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	(自己評価) 職員全員に浸透してきており、その行動にも現れ始めている。		普通の会話や日常業務に取り組む姿勢から『管理者の思い』を汲み取ってもらえるように努力している。迷った際には『あたりまえ』に利用者本位の決断ができる職員が増えてきている。管理者に媚びるのではなく、常に利用者本位の行動がとれるよう職員一同努力している。
			(外部評価) 理念を共用空間に掲示されている。管理者は、日々のケアの中で理念について職員に伝えておられる。		管理者は、理念をもとに職員個々で利用者本位に決断してケアを行えるよう、職員個々の意識を統一していきたいと考えておられる。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 徐々にではあるが、運営推進会議や家族交流会を通して浸透しつつあると思われる。		ご家族には日々の対応や家族会・家族交流会に参加して頂く中で徐々に浸透していくと思われるが、地域の方々と触れ合う機会が少ないため、そこまで至っていない。行事開催時には各戸訪問したり、ピラを配布するなどして、これまで以上により多くの方々に参加を呼びかけていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 住宅が少なく、町内会も無く、地域との付き合いが希薄な地区ではあるが、昨年度末に実施した地域交流餅つき大会には職員が手分けをしてご近所を各戸訪問したり、ピラを配ったりして参加をお願いした。結果7名の参加を得ると共に行事終了までお手伝いをして下さった方もおられた。また、当ホーム隣接道がこの方の散歩道となっており、出会うと自然に会話が交わされるようになってきている。		昨年同様イベント等を企画することで、きっかけが掴めると思うが、案内状や招待状の要らないような関係『昭和30年代のご近所つきあい』を求め続けたい。散歩道で知り合ったようなご近所さんを増やしていくことができればと思う。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 4のとおりで地域交流が困難な地区であり地域行事も少ないが、昨年秋頃より公民館行事の案内状を頂くようになり、地域の一員として認めて頂いたような感がある。公民館単位で行われた震災訓練にも参加をすることができた。 (外部評価) 地域のバザーへの出店や参加のお誘いをいただいた。管理者は、地域の災害訓練に参加された。		本年8月には消防署や地域の方々の協力の下、規模を拡大した防災訓練を予定している。 事業所では、地域の方達が、ちょっと立ち寄ってくれるようなホーム作りを目指しておられる。さらに、事業所の前を通る人達が立ち寄りやすいような取り組み(たこやき屋)等も検討をしておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 8月の防災訓練を機に地区住民の方々との交流を深めながら地域のニーズを探り小さな事から取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 皆が評価そのものを行うことだけでも十分に意識改革に繋がっていると思う。かなり良い刺激になっていること事実である。 (外部評価) 職員個々で自己評価に取り組み、管理者がまとめられた。管理者は、今後、さらに接遇面に力を入れて取り組んでいきたいと話されていた。事業所の理念をわかりやすく作りかえられた。		評価をしたらそれで終わりではなく、『評価は常にテキストである』という意識を持ち続けたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)		
			<p>運営推進会議のメンバーにはホームの現状を十分に理解して頂き且つ、適切な助言を頂いている。助言を頂いた内容を職員に周知し、実践している。</p>		『サービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合い』は無論重要であるが、今年度は『事業所と地域との交流促進のための話し合い』に重点をおいた取り組みを行っていく予定である。
			(外部評価)		
			<p>会議時、餅つきやバーベキュー大会、避難訓練を行い、出席者にも体験していただくことで事業所のことを知っていただけるよう取り組まれている。</p>		<p>今後は、さらに事業所で企画した取り組みについて会議時、相談し、ともに運営していけるよう、話し合いをすすめていきたいと考えておられた。</p>
9	6	<p>市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>当然、市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言頂いているが、それ以外にも困難事例の相談や入居相談など何時でも丁寧に好意的に対応してくださっており、大変心強く思っている。</p>		
			(外部評価)		
			<p>介護相談員の受け入れをされており、契約期間が終了すると、運営推進会議のメンバーになっていただいている。</p>		
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	(自己評価)		
			<p>現在1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。また、この制度利用についての研修会にも参加し、管理者・計画作成担当者のみではなく介護職員にも浸透させている。</p>		
11		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	(自己評価)		
			<p>職員のストレス発散方法が利用者虐待であるならば、そのストレスを貯めない配慮が経営者や管理者には必要である。但し、現在の介護報酬では必用人員を確保するのが精一杯であり、新規採用についても人を選べない状況にある。虐待とは別問題であるが職員の資質は大きく影響する。</p>		<p>研修会などに積極的に参加することは当然必要なことではあるが、日々の業務の中でその重要性を浸透させていくことを常に心がけている。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 定められたことはきっちり行っている。それらの行為に時間がかかるため重要事項説明書などは入居前に本人・ご家族にお渡しし、熟読して頂いた上で再度入居時に説明している。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 直接入ってこない不満や苦情等はさわやか相談員さんの意見等で汲み取るようにしており、職員会や推進会議の場で発表し、助言を頂くシステムになっているが、幸いにも昨年度から通して一件も無い。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月1回の個人のお便りと出納帳をご家族に送付し、近況報告を行っている。また、それまでに何かあれば必ず、電話にて連絡を行い相談により対応している。職員の異動についても異動時に報告を行っている。		
			(外部評価) 3ヶ月に1回ホーム便りを発行し、遠くにお住まいのご家族には、毎月、文章で日頃のご本人の暮らしぶり等、近況報告をされている。又、近くにお住まいのご家族には、日頃撮った写真を渡すようにされている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に行っている家族会や家族交流会では、そういった意見を頂いたことは無いが、遠慮されていることは十分に予測できるため、職員・家族との懇親会を持つ等交流する機会を極力増やし、何でもものが言える関係構築に向け努力している。		
			(外部評価) ご家族が交流するような機会を設けておられ、ご家族が意見を言いやすい雰囲気作りをされている。ご家族からは、「本人の好むようにホームで過ごさせてほしい」というようなご希望が多くある。		さらに、「お世話になっているのでこれ以上望んでは気の毒ではないか」というようなご家族の心情も踏まえて、ご家族に要望や希望を探っていくような取り組みを続けていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員会等で職員の意見を聞き、反映させているが、運営陣とも最低月1回は会合を持ち提案・要望している。 職員会終了後は許せる限りお茶の時間を設け、情報交換を行っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者・ご家族の都合に合わせた勤務を組むために職員にはどうしても無理をかけてしまう。臨機応変に勤務調整を行って利用者・ご家族の希望に沿えるよう心がけている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職については福祉予算切詰政策により介護報酬が低く、どこのGHも労働に見合った給与を支払っていない現状ではどうしようもない。従って離職率が高く、そのため止むを得ず職員のユニット間異動をせざるを得ない。「よく異動(担当者変更)がありますね」とご家族から言われることが一番辛い。		
			(外部評価) ユニット間で、職員の異動を行った際、利用者の不安もあったようであるが、馴染みの職員がゆっくり話を聞き取る等、カバーをされた。ご家族にも異動の趣旨を説明された。		
5.人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者は管理者の意見を正面から受け止め、特に人材育成については、自主研修や資格取得に向けての研修にも補助金を出す等職員の資質向上に積極的に協力してくれている。 研修会等の積極的参加を募り、できるだけ希望する研修会等に参加できるようにしている。		
			(外部評価) 外部から講師を招き、勉強会を行われたり、管理者は、外部研修の受講を職員に促しておられる。外部研修受講後は、他の職員にも周知し、知識等を共有するような仕組みを作っておられる。		さらに今後、事業所では接遇面の勉強に力を入れたいと考えておられる。又、援助の技術を高め、さらにサービスの質の向上を目指していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) GH連絡協議会や市主催のGH連絡会に参加することで交流できたり、互いに運営推進会議のメンバーであったり、特に近隣のGHとは充分に交流できているため互いに良い刺激になっていると思う。また、同社内の介護事業所間でも交流を持ち、切磋琢磨している。		今後も他のGHとの交流を積極的に行いたい。
			(外部評価) 近くのグループホームとは、行事等、利用者と一緒に行き来されている。管理者は、他市等にもネットワークを持ち、交流を深めておられる。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 最低月一回は来所し、管理者や職員の話の聞いたり、懇親会開催に当たっては費用の補助を行っている。また、ハード面においての相談には速やかに対応してもらっている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者には毎日のように担当部長や事務員を通して、それらの情報を上げている。また、職員の努力が報われるよう定期的に勤務評定を行い、昇給や昇格を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前には必ず本人宅(入院・入所中の方はその滞在先)を訪問し、時間をかけて話をじっくり聞くようにしているが、一回や二回の面接で信頼関係を築くということは不可能に近い。殆どの場合、信頼関係作りは入居後から始まるため、じっくり時間をかけニーズを探るしかない。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初回の入居相談時には遠慮もあり、ご家族もなかなか詳しい話を下さらないことが多いが電話や面接を重ねる毎にリラックスした雰囲気作りを行ったり、一回の面接時間をできるだけ長く取り、ご家族に在宅介護の苦労話等十分に吐き出して頂くよう努力している。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回の相談時に本人・家族のニーズを見極め、適切なサービス利用ができるよう居宅のケアマネのつもりで相談を受けるように心掛けている。また、本人の心身状況により当ホームで提供できるサービスとできないサービスがあることを明確に説明している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居相談の殆どが、行き先が無くなったギリギリの状態であることが多く、入居に至るまで時間の余裕が無いため、本人1回、ご家族1~2回の事前面接しか行っていない状況である。入居前調査で家族や関係者より知り得た情報をフル活用して受入れさせて頂いている。 (外部評価) 入居前に事業所を見学いただくようにされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 10時と15時のお茶の時間や昼食後のゆったりとした時間をできるだけ利用者と共に過ごす事ができるよう努めている。その会話の中でいろいろ学ばせて頂いている。 人生の先輩として頼れるところは頼り、また或時には友達関係・親子的関係で楽しく生活できるように場面づくりや声かけを行っている。 (外部評価) 職員は利用者へ畑の作り方やお米のとぎ方等も教えてもらい、一緒に行っておられる。		利用者が不安定な時にはマンツーマンでゆとりを持った対応ができるように今後も取り組んでいきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者本人に第二の家族として接しており、ご家族とはその立場で共に支援していく関係ができています。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時には必ず職員が日頃の生活状況を説明し、家族からの思いも確認するように努めている。毎月お便りに写真を掲載し、ご家族に報告を行っている。遠くに居られるご家族にとっては、「安心できる」と喜ばれている。また、ご家族からの電話があれば、必ずご本人とお話して頂くようにしている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人等が面会に来られた際には職員が必ず声かけを行い次回へと繋げている。また、利用者が友人に会いたいと希望された時には連絡をして一緒に過ごして頂くこともある。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個別に話を聴いたり、気の合うもの同士が居室でお茶をしながら歓談されている。その中へ職員が入り一緒に楽しむこともある。 お茶の時間は職員も一緒にゆっくりと時間を過ごし、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけをしている。 利用者が孤立しないように職員が声かけするようにしている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された利用者のご家族さんに運営推進会のメンバーや家族会顧問に就任して頂きアドバイスを頂いている。また、職員採用時にも知人を紹介して下さるなどの協力を頂いている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) 日々の関わりの中で意向の把握に努めている。利用者が自室に居られる時には様子を観て訪室し、意思疎通を図るよう努めている。また、担当制をとっているため担当している利用者の状況は特に把握するよう指導している。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		<p>さらに、すべての職員が利用者個々の情報を共有しながら、一人ひとりの「あたりまえ」の暮らしを支援できるように取り組まれていることが期待される。</p>
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価) 利用者本人からの情報が得にくい重度の方にはご家族から情報を頂き対応しているが充分とは言えない。サービス利用の経過等は入居前担当のケアマネジャーより情報を頂いている。</p>		
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、できる事をしてもらっている。また、その中で本人の全体像を把握できるように努めている。最近では生活環境に慣れ利用者の主張に振り回されることもある。</p>		<p>失礼な言葉になってしまうが、とにかく「利用者の視点で利用者本人を徹底的に研究する」という気持ちでアセスメントを行わない限り真のニーズの発掘はできないため『関わり』の強化を行いたい。</p>
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 職員全体で取り組むが、職員担当制も取り入れアセスメント・評価・計画に計画作成者と共に関わっている。毎月の職員会でケースカンファレンスや対応の確認を行う。また、ケース記録・連絡ノートで回覧している。 面会時のご家族の思いや評価、担当職員の思いが反映されたプランができるように心がけている。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		<p>ご本人が日頃話していること等、ご本人の思いを汲み取り、ご家族にも意見をいただき、必要に応じて医師のアドバイス等も盛り込み、介護計画を作成しておられる。実践可能な計画に心がけておられる。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ご家族やご本人の要望を確認しながら見直しを行っている。また、状態が変化した場合は、計画の見直しを行っている。		
			(外部評価) 3ヶ月ごとの見直しと、退院等状況が変わったり、ニーズが変わるような場合にも見直しを行なっておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月間記録には評価に活かす事ができる様に個人の月間の様子を纏めるようにしている。また日々の記録には書式を改良し援助目標を容易に確認することができるよう工夫しているがプランに即した記録は書けていないのが現状である。 職員が休みの日は日誌で確認を行い勤務に就くようにしている。		プランに即した記録が書けるようケース記録の書式を更に検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者のご家族が宿泊されたり、一緒に食事や入浴をして頂いたり、できるだけご家族の要望に応えている。 利用者の状況に応じて通院等の支援を行い、利用者やご家族の満足が得られるように努めている。		
			(外部評価) ご家族のご事情等に合わせて、病院受診の同行をされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		(自己評価) 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回さわやか相談員さんが訪問され、ホームの素顔を視て頂いている。また運営推進会議のメンバーである民生委員の方々も家族交流会にお誘いし参加頂いている。 消防署とは防災訓練を通じて種々のアドバイスを頂き、地域交流にも尽力頂いている。		消防署には日頃から種々の相談に気軽にのって頂いたり、本年8月に予定している防災訓練に向けてのより具体的なアドバイスを頂いたりと親切丁寧に対応して頂き大変心強く感じている。
41		(自己評価) 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて訪問理美容サービスを継続利用している。		
42		(自己評価) 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは入居相談で連絡を取り合うことはあっても、ケアマネジメント等で協働していることは現在のところ無い。 権利擁護事業についての相談等、地元の社会福祉協議会の担当者とは協力的な関係にある。		
43	18	(自己評価) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が希望する主治医となっている。2箇所の医療機関から月2～3回往診を受けており、それ以外の医療機関への定期受診については原則ご家族にお願いしている。但し、緊急止むを得ない場合に限り職員が対応するようにしている。また、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。		
44		(外部評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師の往診時、ご家族が来られ、医師から直接説明を受けることもある。服薬については、事業所での状態を伝え、相談しながら支援されている。		
44		(自己評価) 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が専門医でない場合は、認知症の症状により主治医と相談を行い、専門医に相談・受診ができるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しているので、何かあれば連絡をとり医療面での相談・助言等の対応ができるようになってきている。また、地域医療機関の看護師とは気軽に相談できる関係を築いている。 往診時には同行看護師と情報交換や相談ができるよう努めている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された時には管理者や担当者が主にお見舞いに行き、本人の様子観察を行うと共に医師や他の医療スタッフと情報交換を行い、早期退院に向けての援助を行っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い終末期のケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ、往診対応をして頂いている医療機関ともGHの実情を十分に理解して頂いているため協力的に対応して下さっている。現在のところ終末ケアを行った事例はない。		今後終末ケアを希望される方のために既存のマニュアルを改め、より詳細なマニュアルを作成中である。看取りの研修を重ね、来るべき時のご家族の要望に応えられるよう備えたい。
			(外部評価) 「看取りの申込」をご家族からいただいており、事業所で最期までお願いしたいと希望されているご家族もある。		現在、事業所では看取りの指針を作成中である。ご家族や医師との連携や職員の体制作り、又、対応についての勉強を重ねていかれることが期待される。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人・家族に入居時に説明を行い、希望を確認している。また、状況が変化した場合でも家族と連絡を取り合い適切な援助ができるようにしている。病状が急変した場合においては主治医とすぐに連絡をとれる体制を確立している。		終末ケアについては24時間看護スタッフが常駐できない現状や徹底的に医療行為の制約を受けているGHの現状をご家族等に説明した上で、尚希望される方についてのみ主治医と相談の上、受け入れる予定である。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 居宅支援事業者や介護保険施設・病院等と十分な情報交換を行い、ダメージ軽減に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 常に利用者の立場に立ち、親しみの持った口調で声かけを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。個人的な相談等については、自室や他の利用者から閉ざされた場所で行うようにしている。 個人情報、外部に漏らすことのないよう、日々注意をするとともに職員会等で徹底している。</p> <p>(外部評価) 事業所では、利用者と職員のかかわりについて「利用者が心地よい対応」を目指しておられる。</p>		<p>職員の利用者に対する対応や言葉かけ、呼び方等について、時に、外部者の意見をいただいたり、客観的に点検する機会を作ってはどうか。</p>
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) まず、利用者に何をしたいか、どうしたいかの確認を行った上で援助するよう心がけている。外出等行けない場合は理由を説明し理解して頂けるようにしている。 日頃から信頼関係を築くことができるように誠心誠意対応している。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者自身が共同生活をしていると認識され食事やおやつの時間はフロアへ出てこられる。自室に居られる場合は他の利用者に声かけに行きたくともある。それ以外は、各利用者が自分なりのペースで生活されている。 入浴においても利用者同士で相談され順番を決められている。</p> <p>(外部評価) 夜間19時ころから就寝の利用者もおられるが、心地よく眠っていただくために、室温に気を配り、薬等も採り入れながら安定して眠れるように取り組んでおられる。</p>		<p>事業所内で利用者は、思い思いに過ごされているが、職員の勤務の状態によっては、ご本人が買い物等、外出ができないようなこともあるようだ。利用者個々のペースを尊重した支援について、話し合いを重ねてほしい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者の殆どが、自分で更衣されるが、どれを着ていいか判らない利用者については一緒に選んだりしている。 出張理美容が月1回来ているが、利用者自身でカットや毛染めの内容を決められる。		許せるなら金額は高いが近くの理美容院へ行き、気分転換を図ることができたらと思う。(家族と相談の上)
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に食材を切って頂いたり、調理や味付け・盛り付け・配膳・片付けをして頂いている。職員が一人で食器を洗っている時に利用者から声かけして下さり一緒に洗って下さる。また、職員も同じテーブルで同じ物を食べ、会話を楽しくしている。 (外部評価) 畑でご自分が収穫した野菜を食べておられた。誕生日には、その方のお好きな献立でお祝いをされている。		さらに、利用者一人ひとりが食事を楽しめるような工夫について、話し合わせてみてほしい。配膳や利用者の食事時の姿勢、職員のかかり方等について、さらなる気配りが期待される。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者から外出希望や気分転換を図るために買い物に行き、利用者自身が食べたい物を購入される。しかしながら、糖尿病等で食事制限のある方の買い物に付き添う場合はカロリーの低い食品を購入して頂くよう職員が上手に誘導を行う。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄の曖昧な利用者については、排泄パターンを把握しトイレ誘導する事でトイレでの排泄を促している。 トイレが混み合う時は職員が配慮を行い使用中であることを事前に利用者にお伝えして待つ頂く。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の確認を利用者に行い入浴して頂いているが、入浴の順番で機嫌が悪くなる利用者もおられるので、利用者同士で順番を決めて頂いている。しかし、往診等の予定が入っている時は職員が利用者の許可を頂いて順番を決める場合もある。 夜間の入浴は職員が一人になり、事故防止を考え実施していない。		
			(外部評価) 調査訪問時、病院受診の前にシャワーを浴びる方がおられた。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中は活動して頂くようにし、生活のリズムを整えるようにしている。しかし、疲れた時などは自室でくつろぐ事ができるように配慮を行っている。 夕食後は、夕涼み等でゆっくり過ごし、ホットミルク等をお出しして落ち着いて頂けるよう配慮を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 花を育てるのが好きな人には朝夕の水やりや、草引きなど積極的にして頂いている。また、畑仕事の得意な人は野菜の植え方や肥料のやり方等を教授願ひ、一緒にして頂いている。		
			(外部評価) テレビ時代劇を楽しみにされている方がおられる。買い物や散歩、畑の世話や収穫を楽しみにされる方もおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物に行った際には自分で管理できる利用者は自分で支払いをして頂いている。 利用者の中には、ご自分で財布を持ち管理している方もおられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族と外出したり食事をされたりしている。友人が面会に来られた際には一緒に外出できる旨をお話しし、場合によっては同伴外出を願うこともある。できる限り利用者の外出希望には沿えるようにしたいが昼間2名勤務の時は困難な場合もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>散歩や買い物に出かけられたり、花壇の水やりをして下さる方もいる。</p>		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<p>(自己評価)</p> <p>外出行事としてイチゴ狩や花見・ソーメン流し等に出かけている。 遠方から来られた家族の方と一緒にドライブや食事に出かけられる。</p>		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族に許可を頂いてから、本人に電話をして頂き話をして頂く。また、手紙においては住所の代筆等を職員が行っている。</p>		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>いつでも面会に来て頂き、自室でゆっくりとお話をして頂けるように、お茶をお出ししている。また、宿泊されるご家族もおられ一緒に食事もして頂いている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行ったことは無く、職員も拘束してはいけないことは十分に理解している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外は鍵はかけていない。夜間自室の鍵をかけて就寝される方がおられるため安否確認に苦労している。 (外部評価) 玄関には鍵をかけていない。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 特に夜間の行動には細心の注意をはらい見守りを行っている。玄関（出口）方向に行こうとされている時には必ず声かけを行い確認している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 管理的にならないよう、利用者個々の状態やご家族の意向を汲んで行っている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故発生時や危険が生じた場合には『事故報告書』や『HH報告書』にその事実を記し、速やかに全員回覧を行っている。原因が明確になるよう書式を改良・簡略化し、職員が書くことを嫌がらないよう配慮している。また、『HH報告書』については観察度を現す指標となるため積極的に書くよう常に指導している。		提出された『事故報告書』や『HH報告書』を分析し、再発防止に繋げていくため、職員会等で定期的に検討会を持つようにしたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成しているが定期的には実施できていないのが現状である。地域の防災訓練に参加し、習得した応急手当のテクニック等を職員会で実演したり、ケースカンファレンス開催時に実際の事例を通して職員に説明している。		定期的を持つことが難しいため、専門講習が開催される場合は極力多くの職員を派遣し、レベルアップに努めたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防計画のマニュアルに従い、定期的に、より実践的な非難訓練を実施している。消防署への火災通報専用電話が設置してある。 (外部評価) 定期的な避難訓練を行い、消火訓練も行われた。		残念ながら地域の人々に協力を得る働きかけは充分に行えていないのが現状である。もっと地域に入り込んで密接な関係を築き、災害時に地域の協力が得られるような働きかけを行っていきたい。本年8月には消防署・防災設備業者立会いの下、地域の方々に参加願い、大掛りな防災訓練を計画している。 今後、地域の方にも声をかけ、避難訓練を実施する予定となっていた。いざという時に、すべての利用者が安全に避難できるよう取り組みを重ねていかれてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居相談時や入居時に当ホームの介護方針やそれに伴うリスクについて説明させて頂いている。また、心身状況に変化が生じた場合には、その都度ご家族に連絡し、対応策を検討している。		単独外出の可否はご家族によって異なるため、希望があった利用者への対応に苦慮することがある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化があれば確実に申し送りを行い、管理者・医療連携担当者・他の職員が状況を把握できるようにしている。また、協力医や主治医と気軽に連絡・相談できる関係ができており、必要時には速やかに対応できる体制にある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケース記録綴に処方箋と効能書きを閉じ込んでいるので、いつでも確認できるようになっている。また、処方の変更になった際には主治医や薬剤師・看護師に説明を受け、確実に申し送りを行い、職員に徹底している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事は野菜を多く使い摂り繊維質をしっかり摂って頂いている。同時に水分を多めに摂って頂けるようおやつ等にも工夫を凝らしている。また、運動不足にならないように声かけを行い、運動や散歩をして頂いている。しかし、利用者も入居が長くなり、職員が声かけを行っても、なかなか動こうとされないのが現状である。また、日中の職員が2人の時はなかなか外出もできない。		気分転換を図ることを兼ねて散歩に出る回数が増えることを期待している。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きを実施している。 歯科治療が必要な場合、往診で対応できるレベルであれば、それができる体制はとれている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量においては利用者の体重増加もあり調整を行っている。水分摂取は利用者の希望により行っている。夜間は、ペットボトルを自室に持ち込み飲んで頂いている。 個々の摂取量に応じて盛り付けを工夫している。		
			(外部評価) 食事が進まない方には、おにぎり等を準備されている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 本社衛生管理マニュアルに従い、消毒液やハンドソープ・ペーパータオルを使用し感染症予防に努めている。次亜塩素酸で毎日廊下の手摺や指定された台所用品の消毒を行っている。 職員は毎月検便検査を実施している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 四半期に一度母体会社より専門員が来所し、衛生点検を受けている。本社マニュアルに基づいて食品各々の保管方法や調理器具の消毒方法まで徹底した指導を受け、確実に実施している。また、年1回衛生講習が義務付けられており全職員が交代で出席し、食中毒予防の研修を受講している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関は手摺を設け、スロープにして出入りがしやすいように工夫している。また、玄関周りの花壇には季節の花を植え、親しみやすさを感じて頂けるようにしている。郵便ポストも家庭的な物にしている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 手作りの座布団カバーや居室の暖簾等を作成している。 観葉植物を置いたり花を生けたりと家庭的な雰囲気が出るようにしている。</p>		<p>玄関、浴室、トイレが殺風景な感じがするため、暖かい感じを醸し出す工夫をしたい。</p>
			<p>(外部評価) 洗面所に、ご家族からいただいたお花が生けられていた。トイレの場所が遠くからもわかりやすいような表示になっている。</p>		<p>事業所ではあたたかい雰囲気の共用空間作りを目指しておられる。装飾やしつらえ等、利用者年代の居心地のよい環境作りをすすめていかれてほしい。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールにはソファを配置しており利用者や面会者が過ごすことができる場所を確保している。玄関横には長椅子を用意しており外気浴等を楽しむ事ができる。 テーブルの席も食事の際は自然と決まってくるが、それ以外は気の合う者同士が横に座り会話を楽しんでいる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			できる限り自宅で使用されていた馴染みの家具等を持参して頂き、配置等にも配慮して自宅に近い環境にするようにしている。		
			(外部評価)		
			居室で、ヘッドホンで歌を聞かれる方がおられる。ご家族の写真を飾ったり、仏壇を持ちこまれている方もある。居室のソファでくつろいでおられる方もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			24時間自動換気システムとなっているが、自宅同様朝の掃除の時など窓を開放し換気を行っている。また、冷暖房中であっても窓を完全に締め切らず常時自然の風が屋内に入るよう配慮している。 冷暖房は居室ごとに設置し、方位や日当たり状態・本人の好みに合わせて温度・風量を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			床材は滑りにくく、万が一転倒があってもダメージの少ない素材にしている。手摺も必要と考えられる箇所には取り付け、安全に歩行ができるようにしている。浴室もバリアフリーで手摺も設置しているが、座位が不安定な方には浴槽が広すぎるため工夫し浴槽台を背もたれにした状態で足が届くようにしている。		利用者が洗濯や掃除等の家事をより積極的に行って頂くために専用の流台を近日中に増設する予定である。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			十分なアセスメントを行い利用者個々の個性やパターンを十分に把握しておくことは当然であるが、常時利用者の言動にアンテナを張り、崩れる兆候を察知し、速やかに対応することで混乱や失敗を未然に防ぐようにしている。		頭では解かっているつもりでも職員の個性が表出し過ぎたりして十分な対応ができていないと言えない。 場所の表示等もAさんには効果があってもBさんにはマイナスになってしまうこともあり頭を悩ませている。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			建物の周りを散歩する事ができるようになっている。利用者が自分の散歩したい時間に散歩をされている。また、玄関横にはベンチを置き花壇の花を見たり、手入れをされたり、夕涼みや日向ぼっこができるようにしている。裏庭には畑もあり、利用者が野菜を育てている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	意思表示のできる利用者については、殆ど掴めていると思うがもの静かな方については難しいと思う。 利用者の思いや願いに全て対応するのは難しい。思いや願いになるべく配慮できるように心がけてはいるが、中にはできないこともあるため。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	その日の利用者の状況にもよるが、皆でとる水分補給やおやつ・昼食後や夕食後など、ゆっくり過ごす事は毎日あるが、昼間2人勤務の時は時間的に短い場合もある。 職員が業務の合間合間をみては一緒に過ごせる時間を作っていると思う。 くつろいでいる時間に共通の話題や世間話や冗談で笑いがある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	決まった時間(食事やおやつ)以外は自室で休まれたりフロアでテレビを見て過ごされたり、他者と会話をされたりと時間を有効に使われている。 自分で行動できない人・言葉に出してうまく言えない人もいるが、自分のペースで過ごされている方が多いと思われる。また、職員も無理な声かけは控えている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	感情の起伏によっても違うが援助の仕方・言葉かけによって表情が生き生きとしている。しかし、同じ援助でも利用者の性格や状態にもよるが、生き生きした表情や姿が見られない時もある。援助の工夫と特定の人ばかりの援助に偏らないように努力しているが難しい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の希望する場所へ出かけてもらうのが望ましいが、職員の人数に限りがあるのと一人で外出したいと希望されることがあるため。また、外出に誘っても腰痛等で拒否される利用者も多くなり、外出回数も減ってきている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	1回/2週間に往診がある。また、状況に変化があれば主治医と連絡を取り受診または往診をして頂いている。緊急時は、救急車にて搬送受診を行うが、八幡浜市の現状では水・土曜日の救急を受け入れてくれる医療機関が無く、40~50km離れた所まで利用者を搬送しなければならないため非常に不安である。 安全に利用者が過ごせるように見守り観察は一生懸命している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状況はその日によって違うが生活全般に目を向け援助をしているつもりではあるが、全ての把握は難しいので、全員が安心して生活できているかは? また、利用者の中にはいつも家の事を心配されている方もいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会や交流会等頻回に来られる家族との信頼関係はできていると思うが、職員全体としてはゆっくり話す時間がとれないのが現実なので関係の確立は難しいと思われる。しかし、努力はしているつもりである。ユニット責任者とご家族においては話ができていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	さわやか相談員の月1回の訪問がある。また利用者のご家族や知人の訪問はあるが、地域の人々の訪問はあまりない。 訪問があっても玄関先で用件を言われ帰られる方も多い。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えてい る (自己 評価) ③あまり増えていない 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 4 全くいない	推進会議を通して理解者や応援者が 増えているとは言い難いが、行事をす ることにより行事には参加している 方は増えているように思う。
98	職員は、生き活きと働けている (自己 評価) ②職員の2/3くらいが 1 ほぼ全ての職員が 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間の関係も良好で、お互いに 助け合えていると思うが、中には 疲れているのか元気がない職員も たまにいます。落ち込んでいる時 もお互いに声かけあう事で前に進 んでいっていると思うが、いつも、 生き活き働くのは難しいと思う。 目的意識をもって働いている職員 は生き活きしているのが伺えるが、 その日限りの仕事と捉えているよう に思える職員からは全く活気を感 じられない。
99	職員から見て、利用者はサービスにお おむね満足していると思う (自己 評価) ②利用者の2/3くらいが 1 ほぼ全ての利用者が 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々穏やかに過ごされているので、 サービスというより、ホームでの生 活に慣れてきたのかと思うが、利 用者によっても違うと感じられる。 自己主張が強くご自分の要求が通 らない時には、かなりの不満の声が 聞こえる。全ての利用者を満足さ せるような対応は難しく限界も感 じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサー ビスにおおむね満足していると思う (自己 評価) ①ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時や電話対応時に不満の声を あまり聞いたことが無く、「落ち着 いている」「笑顔が多くなった」 等の声を聞かせて頂いた時に安心 しておられると感じ取られる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者個々の個性を重視して無理のない援助を行うことを常に心掛けている。
のんびりと和やかな雰囲気づくりを行っている。